



Title	Essays on agglomeration and economic growth
Author(s)	広瀬, 恭子
Citation	大阪大学, 2009, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/49349
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

【4】

氏 名	ひろ せ ぎょう こ 広 瀬 恭 子
博士の専攻分野の名称	博 士（経済学）
学 位 記 番 号	第 2 2 6 4 7 号
学 位 授 与 年 月 日	平成 21 年 3 月 24 日
学 位 授 与 の 要 件	学位規則第 4 条第 1 項該当 経済学研究科経済学専攻
学 位 論 文 名	Essays on agglomeration and economic growth （集積と内生成長に関する論文）
論 文 審 査 委 員	（主査） 准教授 山本 和博 （副査） 教 授 阿部 顕三 教 授 二神 孝一

論 文 内 容 の 要 旨

論文の導入部である 1 章では、関連文献の内容をまとめ、紹介を行っている。

2 章では、Grossman-Helpman-Romer タイプの内生成長モデルを、国際間で非対称な知識の波及効果が存在している 2 国を持つ経済に拡張した。イノベーションコストは両国に立地している企業数が増加するにつれて低下する

が、自国の企業数の方がイノベーションコストの低下に対する効果が大きいような非対称なスビルオーバーが存在している。小さな市場を持つ国への波及効果の方が大きい場合、イノベーション活動は必ずしも大きな市場を持つ国で行われるとは限らない。イノベーション活動が大きな市場を持つ国で行われている場合、成長率は輸送費用の低下に伴い上昇する。しかし、イノベーション活動が小さな市場を持つ国で行われている場合、成長率は輸送費用の低下に伴い低下する。つまり、輸送費用と成長率の関係が単調ではない状況が現れる可能性がある。

3章では、Grossman-Helpman-Romerタイプの内生成長モデルを、移動可能な熟練労働者と消費財と差別的な中間財の生産に関連を持った2地域モデルに拡張した。この経済においては、完全集積、不完全集積そして分離された集積の3種類の定常状態が現れる。完全集積においては、研究開発部門、中間財部門が1つの地域に完全に集積する。不完全集積においては、研究開発部門が完全に集積している地域に中間財部門が不完全に集積する。分離された集積においては、最終財部門と中間財部門が完全に集積している地域とは異なる地域に研究開発部門が完全に集積する。また、それぞれの定常状態における熟練労働者の厚生を比較を行っている。熟練労働者たちは、最終財企業が完全集積している地域に完全集積することで最大の厚生を得ることができる。分離された集積では、完全集積よりも彼らの厚生は低くなる。しかし、分離された集積が必ずしも最低の水準になるとは限らない。

論文審査の結果の要旨

本論文は空間経済学の動学的研究という、先端的な分野の開拓を行った意欲的な研究であり、知識の局所的なスビルオーバーが産業の空間的集積にどのような影響を与えるかを解明している。空間経済学の動学モデルは一般的に解析する事が困難だが、本研究はその技術的な課題も丁寧に克服し、理論的な貢献も高い。従って、本論文は、博士(経済学)として価値があると判断する。